



朝ごはん 脳とカラダの 0 限目

～川柳に込めた思い～

朝ごはんを食べると脳と体が起き、集中して勉強に取り組めるので、準備時間として0限目と表現しました。

学校保健委員会(令和5年11月6日開催)

性の多様性について知り ALLY になろう

11月6日(月)に第2回学校保健委員会を開催しました。学校保健委員会とは、学校と家庭・地域社会が連携して、子どもの健康を推進するための組織です。今回は、講師に NPO 法人 ASTA の方々をお招きして、「性の多様性」をテーマに開催しました。様子を紹介します。



1 性の多様性についての基礎知識

(1) 「LGBTQ+」とは

セクシャルマイノリティ(性的少数者)の総称の一つで、以下の四つの頭文字をとったものです。セクシャルマイノリティは、全体の約8.9%、およそ11人に1人いると言われています。

- L** (レズビアン) …女性同性愛者
- G** (ゲイ) …男性同性愛者
- B** (バイ) …両性愛者
- T** (トランスジェンダー) …戸籍の性別と認識している性別が一致していない人
- Q** (クィアまたはクエスチョニング) …性的マイノリティの方々の総称、または、性が定まっていなかったり、揺らいだりしている人

「レズビアン」「ホモセクシャル」を略した「レズ」「ホモ」は、性的マイノリティを軽く見る差別用語になります。



— 豆知識 — 性的マイノリティにだけ、分類名が付けられているわけではありません。

ホモセクシャル…同性愛者 ←→ **ヘテロセクシャル…異性愛者**

トランスジェンダー ←→ **シスジェンダー …戸籍の性別と認識している性別が一致している人**

(2) 「性の在り方」の4要素

性の在り方を下記の四つの要素で捉え、表した自分の性を「SOGI(ソジ)」と呼びます。誰もが「SOGI」の当事者であり、「性の在り方」は一人一人違います。そして、**全ての性の在り方は、尊重されるべき人権**です。また、「性の在り方」は、本人が決定することであり、周りの人が、勝手に判断してはいけません。

【要素1】法律上の性別 (Sex)

「生まれた時に割り当てられた性」

女性	男性
----	----

【要素2】性自認 (Gender Identity)

「自分の性をどう認識しているか」

女性	男性
----	----

【要素3】性的指向 (Sexual Orientation)

「恋愛や性的な関心がどの性に向くかまたは向かないか」

女性	男性
----	----

【要素4】性表現 (Gender Expression)

「自分の性をどう表現するか」

女性	男性
----	----

(3) 「Microaggression (マイクロアグレッション)」とは

「Microaggression」とは、人と関わるときに、相手を差別したり、傷つけたりする意図はないのに、相手の心を傷つけてしまう言動のことを指します。育つ環境の中で、知らず知らずのうちに、男女の役割に対する固定観念や偏見をもってしまふことがあります。今一度、自分たちの言動を見直してみましょう。

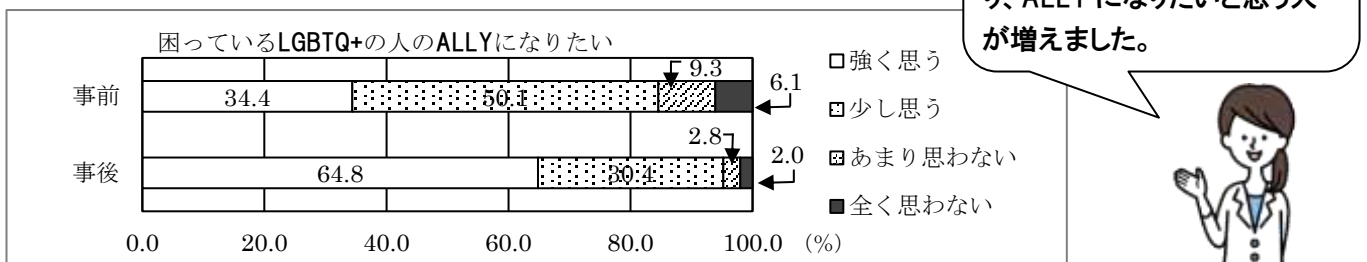
彼女できたか？	〇〇くん。△△ちゃん。	男泣き	女子力	男女別の制服や髪形
				
異性を好きになることを前提にした言葉	性別による呼び方の違い	男は泣かないことを前提にした言葉	女性は料理や手芸などができた方がよいという見方	

(4) ALLY (アライ)とは

「ally」は英語で、「味方」「同盟」を意味します。性の在り方をはじめとする様々な価値観の違いに対して「理解し支援したい」「味方でありたい」と思う人のことを示します。

性の多様性についての基礎知識を学んだ後は、性的マイノリティの当事者であるお二方から、貴重な経験談を聞きました。

2 学校保健委員会後のアンケート結果と感想



—学校保健委員会後の生徒の感想より—

- ・相手がどんな考え方をもっている人だとしても、差別はよくないし、無理に親切にすることもおかしくて、誰にでも同じように接することのできる人になりたいと思った。
- ・男女の性別に関係なく、一人として考えることが大切だと知ることができた。自分と考えが違って、受け入れることが難しいことがあっても、拒否するのではなく、その人とよく話し、サポートすることで自分もたくさんの考えを受け入れられるように成長していきたい。
- ・LGBTQの方は、否定されると、悪いことじゃないのに、悪いことだと思ってしまい、苦しむと思った。だから、尊重することが大事だと思う。
- ・ほんのささいな言葉で傷つくということを知って、ほんのささいなことを意識するだけで誰かのことを助けてあげられるきっかけになると気付いた。
- ・ALLYの存在は、どんな価値観の人にも対応していて、全て、包みこむような人にならなければと思いました。そして、LGBTQ+という言葉がなくなるくらい、みんなが分かり合えたらいいと思います。
- ・困っている人のALLYになりたいと思った。そのためには、信頼されていないといけないと思うので、絆を深めて相談されるような人間でありたい。
- ・困った時に頼れる人がいるといいと思った。信頼できる人間関係をつくるために、これからの生活を見直したい。
- ・話を聞いて自分らしさを出していこうと思えるようになった。
- ・一人が言った言葉が、こうも人の気持ちを大きく変えてしまうことを知ることができた。言葉は「ナイフのように鋭く痛いもの」にもなるし、「人の心を落ち着かせる薬」にもなるのだと思った。